

千秋楽

学校では卒業式へ向けて準備がどんどん進み、いよいよ卒業式を迎えようとしていることと思います。卒業式が好天に恵まれることを遙か遠い太平洋洋上よりお祈りしております。

神海丸では、2月22日(木)午前1時(船内時)の揚げ終わりををもって、平成29年度第2次マグロ延縄漁業実習の操業が終了しました。漁船では最後の操業のことを「千秋楽」といいます。普段の揚縄中作業甲板では、幹縄を巻き上げるラインホーラの機械音と、船員さんの大声が響いていますが、千秋楽だけは音楽をかけながら操業することが許されます。生徒達が持参した曲が次々かかりますが、中年のオジサンには誰の何という曲かさっぱりわかりません。たまに知っている曲がかかると口ずさんだりしますが、アイドルの曲とかだとイメージが壊れるから唄わないでくれと生徒に言われ少し凹んだりしました。

本科生たちは、操業が始った頃は、船酔いを克服したばかりなのと、初めての経験で要領がわからず、よく我々指導教官や船員さんに注意されていました。また、操業中の日々の生活はとても単調なので、長く感じたことと思います。しかし、生徒たちはお互いに助け合いながら、よく頑張ってきました。今では、操業や当直に慣れ、周りの状況を見て動くことが出来るようになりました。「学校より神海丸の方が楽しいです。」と言ってくれる生徒も多くいます。(教員としては複雑な気持ちですが^^)自分に与えられた仕事を責任感を持って真剣に取り組もうとする姿を見ると(学校の先生方や保護者の方々にお見せできないのが残念ですが)、生徒たちの成長を感じます。神海丸での漁業実習の目的はここにあるのだと改めて確信しました。神海丸で身につけたことを、学校や家庭で忘れずに実践できるようになって欲しいと願うばかりです。



千秋楽の御馳走を準備している食事当番の福地君。



大きなクロカワカジキを前に一航士、吉岡さん、小泉さんと記念撮影する勘場君と鐵田さん。



僕と同じくらいの体重のメバチマグロの前で船員達と記念撮影する宇津君、勘場君、鐵田さん。



千秋楽の揚縄で獲れたメバチマグロを前に船員と専攻科生と一緒に記念撮影する熊谷君と若菅君。



40Kg ぐらいのメバチマグロを抱える大屋君、若菅君、熊谷君、藤田君、佐々木君、大石君。